

不登校における家族背景の関連性

札幌太田病院 2 階病棟

車 真智子¹⁾

1) 看護師

1. はじめに

私は、札幌太田病院に入職して 3 階病棟に勤務し、思春期、中でも不登校で入院してくる子供が多いことを知った。

不登校になる原因には、本人に問題があるケースもあるが、家庭にも問題があるケースも多く、今回様々な家庭での問題について調べてみることにした。

2. 事例紹介

平成 年の夏季の 1 ヶ月間に、不登校の診断がつき入院した小学生～大学生までの 7 名。詳細については表 1 に示す。また、それぞれの家庭の問題点を表 2 にまとめる。

表 1 から両親の離婚 28.6%、両親共働き 28.6%、片親との生活 42.9%、長男・長女・一人っ子 100%という結果が得られた。

表 1 平成 年夏季の不登校症例

氏名	学年	家族構成	他の病名	家族の状態
A()	高校生	両親・弟 4人暮らし	抑うつ摂食障害	・両親の共働き ・弟の不仲
B()	中学生	母・妹 妹・祖父母と 4人暮らし	なし	・幼稚園の時、両親の離婚 ・母親が交際相手の男性と同居するため祖父母宅で生活中
C()	高校生	両親・弟 父と2人暮らし	統合失調症	・母親に対し陰性感情あり ・患者と父・母と弟で別居中
D()	高校生	両親 母と2人暮らし	対人恐怖症 思春期うつ病	・中学生の時から父が単身赴任中のため母親のみと生活
E()	大学生	母 母と2人暮らし	抑うつ状態	・高校生の時、父が自殺 ・母親が夜の仕事をしている
F()	中学生	母・継父・妹 4人暮らし	なし	・幼少期、両親離婚 ・小学校時、母親再婚 ・継父とあまりうまくいっていない
G()	小学生	両親 3人暮らし	家庭限局性行為障害	・両親の共働き

表 2 各不登校症例における問題点

氏名	問題点
A()	両親が共働きの為不在しがちで高校生活での不安を相談できずにいた。
B()	両親の離婚を経験後、親と生活することが無く親の愛情を知らず寂しい思いをした。
C()	母親に陰性感情があり別居中の為、母親の愛情が乏しかった。
D()	父と会話することが殆どなく、父親の愛情が乏しかった。
E()	母親が働いていた為不在しがちで自分の悩みを相談できずにいた。
F()	継父とあまり話すことがなく、父親の愛情が乏しかった。
G()	母親の過保護により、母親依存となっていた。

また表 2 からは、本人と家族関係の問題、または、両親の離婚など本人を取り巻く家庭環境に何らかの問題があることがわかる。

3. 考察

子供にとって両親の離婚、片親との生活は尊敬対象を失い、絶望感を持たせることもある。

また、両親が健在でも共働きで子供と接する機会が少ない場合は、家族として理解し得ない部分が出てくる。更に、長男・長女・一人っ子の場合は、甘やかし・過保護に育てられるケースが多くみられるため、問題解決能力に欠けているケースが多い。不登校になる原因は個々のケースによって異なっているが、表 2 のように家庭に何らかの問題を抱えているケースが多いことがわかった。

当院に入院してくる子供達は、集中内観を通し、親の愛情、感謝の気持ちを得ることができている。その結果、当院からの登校期間を通し、通学できる様になっている。

「子供は次の世代の財産であり、子育ては親の大事業です」¹⁾

家族も子供の「何か変だ、うまくいっていない」というサインを受け止め、本人と一緒に

に考えて乗り越えていく手助けをしてあげる必要がある。

4. おわりに

私も 1 人の親として、子供が自分の気持ちを素直に表出しやすい家庭を作る様に家族間のコミュニケーションを大切にしていきたい。また看護職としては、親への働きかけも大切に、これからの仕事に役立てたい。

文 献

- 1) 太田耕平：幼児から高齢者までの心の発達十段階療法,第 10 版・医療法人耕仁会札幌太田病院,札幌, p 197, 2004
- 2) 中沢たえ子：子どもの心の臨床,第 3 刷・岩崎学術出版社,東京, pp115 ~ 143、1992
- 3) 久保木富房 / 不安・抑うつ臨床研究会編：子どもの不安症,第 2 刷・日本評論社,東京, pp121 ~ 130, 2005